

## 2020年度 第3回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2021年3月25日（木）10時00分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：16名 オブザーバー：25名 計41名

○協 議 (1) 2021年度事業計画（案）および収支予算（案）について  
(2) その他

○報 告 (1) 秋田市中心市街地活性化基本計画（第5回変更案）に関する意見書の提出について  
(2) 秋田市中心市街地活性化基本計画等に関する事業の進捗  
①「あきた芸術劇場」および「秋田市文化創造館」に関する実施事業について  
②秋田市まちなか観光案内所について  
③都市計画道路「千秋久保田町線」について  
④秋田市まちづくりLabについて  
⑤駅たびコンシェルジュについて  
(3) 秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗  
①秋田市中心市街地鳥瞰図作成事業について

○情報提供 東北経済産業局から「中心市街地活性化等支援事業について」資料提供

（発言内容）

【三浦会長の開会挨拶】

- ・ 中心市街地活性化基本計画の中核事業であるあきた芸術劇場や秋田市文化創造館の整備が進んでおり、秋田市文化創造館については3月21日に開館し、9月までの約半年間、開館を記念し展覧会等が実施されている。
- ・ 民間サイドにおいても中通地区 CCRC 拠点クロッセ秋田が入居を開始し、ホテルメトロポリタンの増築部分は5月末に完成予定となっている。また、秋田オーパの北側、ホテルハワイ駅前店跡地、秋田中央警察署隣の3カ所でマンションの建設計画が浮上し、中心市街地における居住人口の増加が期待される。
- ・ また、大町1丁目に移設された旧大島商会の建物が、「秋田市まちなか観光案内所」として4月1日に開所する。まちなか観光の拠点として広く活用されることを期待する。
- ・ 秋田駅西口で整備が進められていた千秋久保田町線の拡幅工事が3月末に完成予定であり、我々としても待ちに待った開通となる。これにより相互通行が可能となり、駅前の交通環境が改善される。また、開通後、その他様々な効果が生まれてくることを期待している。

- ・ 中心市街地活性化基本計画が来年度で最終年度となる。当協議会では、中心市街地において、これまで完成した施設と今後完成予定の施設を一体的にあらわした鳥瞰図を作成した。視覚でワクワクするような、鳥の目で中心市街地を眺められる図に仕上がっている。後ほど、詳細を報告させていただく。
- ・ 本日は、来年度の事業計画と予算についてご協議いただくほか、各機関が実施する事業についてご報告いただく。皆様からは忌憚のないご意見をいただきたい。

## 【協 議】

### (1) 2021年度事業計画(案)および収支予算(案)について

事業計画(案)・収支予算(案)について、事務局が以下のとおり説明した。

- ・ 来年度の協議会は、6月、12月、2022年3月に開催する計画であり、1回目は6月1日(火)13:30に開催予定である。
- ・ はじめに、今年度事業の実施結果、収支決算見込みについて説明し、今年度はコロナの影響により中止した事業があったため、来年度への繰越金が増加した旨報告した。

#### (実施事業(1) 中心市街地「芸術・文化・商業」情報発信事業)

- ・ 秋田市文化創造館およびあきた芸術劇場の開館を契機に、中心市街地における芸術・文化・商業に関する情報を広く発信し、中心市街地の賑わい創出を図ることを目的に実施する。
- ・ 実施内容①リニューアル版アートなまち歩きの作成について、2016年から発行しているアートなまち歩きに、商業店舗の紹介および店舗で開催する催事情報を追加するとともに紙面構成を見直し、まち歩きのツールとして活用しやすいようリニューアルする。
- ・ 実施内容②WEBサイトの制作について、リニューアル版アートなまち歩きの情報をWEBサイトに掲載するとともに、紙面に掲載されていない催事等の最新情報をリアルタイムで閲覧できるWEBサイトを制作する。
- ・ 実施スケジュールについて、3/17に開催した芸術文化ゾーン活用研究会において事業内容について協議した。本日、当協議会において事業計画・予算についてご審議いただく。4月から制作に着手し、5月上旬にリニューアル版アートなまち歩き1号を発行する。その内容をもとに、芸術文化ゾーン活用研究会においてWEBサイト案について協議する。7月上旬にリニューアル版アートなまち歩き2号を発行するタイミングに併せWEBサイトを開設する。

#### (実施事業(2) 芸術文化ゾーン活用研究会)

- ・ (1)の情報発信事業の内容について協議するほか、あきた芸術劇場が2022年6月に開館予定であることから、芸術文化ゾーン全体の方向性を定め、まちづくりを牽引するディレクターの設置を検討していく。

#### (実施事業(3) 広小路バザール(仮称)開催への協力)

- ・ 中心市街地に定期的な賑わいを形成するとともに県内事業者の秋田市中心市街地への出店機会を創出するために開催する。2021年度はエリアなかいちにぎわい広場等で開催されるイベントと連携し集客を図り、次年度以降の定期開催に向けたトライアル事業として実施する。
- ・ 開催日時は9月19日(日)を予定し、広小路と中土橋を会場とする。
- ・ 出店対象者は県内に店舗を有する事業者とし、出店コマ数は55コマ、出店料は税込み12,000円(キッチンカー20,000円)を予定している。出店に要するテントは主催者側で準備する。

(実施事業(4) 秋田市ナイト観光・賑わい創出ソフト事業実施への協力)

- ・ 夏季の千秋公園の蓮のライトアップにあわせて朝と夜の観光へ取組む賑わいソフト事業として、「2021千秋蓮まつり」の実施に協力する。

(実施事業(5) 中心市街地鳥瞰図広報事業)

- ・ 今年度作成した中心市街地鳥瞰図を秋田市広報に掲載するほか、ラッピングを活用し、中心市街地の魅力を市民等に広くPRする。

(実施事業(6) 情報発信事業)

- ・ 芸術文化ゾーン活用研究会構成団体が実施する事業を周知するため、PR用のパンフレットスタンドをぽぽろーどとにぎわい交流館AUへ継続設置する。

(実施事業(7) 中心市街地循環バス「ぐるる」車内広告の利用促進)

- ・ ぐるる車内広告を利用して、芸術文化ゾーン活用研究会構成団体や周辺商店街が実施するイベント情報を発信する。

(実施事業(8) あきたチャレンジマーケット、まちなカフェ等の利用推進)

- ・ 中心市街地の賑わい創出と新たな出店を促進するため、クイックテントやテーブル等を無料で貸出しする。

(実施事業(9) 情報交換)

- ・ 最新の情報収集を目的とし、東北地域中活協議会等交流会などに参加する。

以上、事業計画(案)・収支予算(案)についてご審議をお願いしたい。

#### 【意見・質問】

(川反外町振興会・那波会長)

- ・ 中心市街地鳥瞰図のラッピング掲示場所はどこか。

(事務局)

- ・ 中心市街地内の様々な施設と協議している段階である。人通りが多いところへの掲示を検討している。

(川反外町振興会・那波会長)

- ・ パンフレットスタンドに限らず、ぽぽろーどや秋田駅のコンコースにおいて、広告物の掲示設備がたくさん置かれている。本来、通路であるべきところにとってつけたようなものが置かれているのは、秋田の玄関口としていかがなものか。秋田市文化創造館やあきた芸術劇場など芸術・文化に関する施設が整備されてきているので、ぽぽろーどやコンコースのあり方も含め、秋田駅前周辺の整備を考えていかなければいけない。

(三浦会長)

- ・ パンフレットスタンドの利用件数などを検証し設置場所を検討するとともに、秋田駅前の環境整備の観点から、ただ今のご意見を踏まえ今後の展開に役立てていきたい。

(秋田市広小路商店街振興組合・佐々木理事長)

- ・ 国土交通省が3Dマップを整備するために作業を進めているようだ。これと連動して将来の都市計画に資するものを作っていくべき。国と当協議会が連携するのは難しいだろうが、秋田市が、それを活用して気軽にまち歩きを楽しめるようなものにするなどが考えられる。

(秋田市都市整備部・根田部長)

- ・ グーグルでも国土交通省でも著作権の問題があるので、秋田市が活用してなにかを作成するのは難しい。当協議会で鳥瞰図を作成いただいたが、これは自由に活用できるので、作成したのは大きな意義がある。

(秋田市広小路商店街振興組合・佐々木理事長)

- ・ 著作権の問題は、おっしゃるとおりであるが、秋田市から国に使い方を提案し協力を求めることは可能ではないか。国も場合によっては連携したいと言うかもしれない。
- ・ アートなまち歩き WEB 版について、地域の情報を発信する WEB サイトが多数あり、ほとんど見られていないサイトもある。独自サイトを作るのではなく、既にあるサービス例えばグーグルマップに、各施設の情報を全て登録するほうが有効ではないか。
- ・ WEB サイトを作るのであれば、一般の方々が閲覧した感想を書き込めるようにしていただきたい。情報を提供するだけでなく、提供された側の意見を改善につなげていくような仕組みにして欲しい。

(三浦会長)

- ・ これまで紙媒体のみだったアートなまち歩きを WEB 版にするという新たな試みなので、ただ今の意見を参考にしながら進めていく。

## 【報 告】

### (1) 秋田市中心市街地活性化基本計画（第5回変更案）に関する意見書の提出について

秋田市都市総務課の横山課長が以下のとおり報告した。

- ・ 秋田市中心市街地活性化基本計画第5回変更案に関する意見について報告する。
- ・ 変更案については、前回の協議会に示したが、その後の経過について報告する。
- ・ 第5回変更内容の修正について、内閣府および事業を所管する関係省庁との協議の結果、変更案を一部修正した。前回の協議会で新規事業にあげていた「アルヴェローカル5G基地局整備経費負担金」について、国の交付税措置を受けられる事業と位置づけていたが、協議の結果当該支援措置事業に該当しないと指摘があったが、本事業が中心市街地の活性化に資する事業に変わりはないので、支援措置を「(4) 国の支援措置がないその他の事業」に変更し、計画へ掲載した。
- ・ 次に協議会への意見聴取および意見書について、令和3年2月9日付けで秋田市から協議会に意見聴取依頼したところ、翌10日付けで変更案が妥当なものであるとのご意見があったことから、2月15日付けで、内閣府へ変更認定申請をした。
- ・ 最後に変更認定について、前回の協議会において、3月下旬の認定予定とお伝えしていたが、令和3年3月12日付けで、内閣総理大臣から変更の認定を受けた。

### (2) 秋田市中心市街地活性化基本計画等に関する事業の進捗

#### ① 「あきた芸術劇場」および「秋田市文化創造館」に関する実施事業について

秋田市企画財政部の齋藤副理事兼企画調整課長が以下のとおり報告した。

- ・ あきた芸術劇場について、3月13日にアルヴェで愛称発表イベントを実施し、併せて今後のスケジュールを公表した。来年6月5日が開館記念式典、9月23日がグランドオープンと

なり、それに向けて機運醸成のための PR イベント等を実施するとともに、施設予約システムの導入やプロモーター等への誘致活動などの開館準備を県市で連携し行っていく。

- ・ 主な実施事業について、開館に向けた機運醸成事業ということで、新たな施設を県内外に広く周知するために、PR イベントや県民・市民の参加事業を実施する。その内容として、カウントダウンスタートイベントのほか、思い出の写真展、工事現場見学会などを実施する。また、県民・市民参加型ミュージカルを制作する予定であり、令和 3 年度中に、脚本の制作や参加者の募集を行い、令和 4 年度に実演する。
- ・ 開館準備事業について、指定管理者と連携して準備を進めるほか、県民・市民により親しまれるようシンボルマークを作成する。
- ・ 秋田市文化創造館について、3 月 21 日に無事開館した。当日は開館記念式典と指定管理者によるオープニングイベントを実施した。
- ・ 当施設について、使い方の工夫が必要であるため、開館から約半年間実施する「200 年をたがやす」という展覧会を通じ、市民等にどのように使えるのか見てもらえるようにしたい。
- ・ 3 月から 6 月には、「つくる」ということで、秋田公立美術大学の服部准教授の協力のもと、展示物を作り上げていく。
- ・ 7 月からは、「みせる」ということで、文化創造館の活用方法を実際に見てもらう機会にする。
- ・ 芸術文化ゾーンの考え方について、本市内で共有し連携しながら各取組を進めてきた。これまでは、秋田市文化創造館の整備と内堀の整備をした。来年度以降は、中土橋と千秋公園大坂の融雪化、あきた芸術劇場の開館、佐竹資料館の整備検討をしていく。今後は、芸術文化ゾーン活用研究会等において、ゾーン内の施設の活用方法や関係者の繋がり等に意識をシフトしていきたい。

## ②秋田市まちなか観光案内所について

秋田観光コンベンション協会の石川参事が以下のとおり報告した。

- ・ 4 月 1 日より国の登録有形文化財である旧大島商会店舗が移築され秋田市まちなか観光案内所がオープンする。3 月 24 日にオープニングセレモニーを開催した。新しい観光拠点施設として当協会が指定管理者となり、事務所を本施設 2 階に移転する。秋田駅の観光案内所や秋田市観光案内人の会と連携し観光案内業務の充実と、本市の歴史および文化を活かしたまち歩き観光を推進していく。

## ③都市計画道路「千秋久保田町線」について

秋田市道路建設課の有坂課長が以下のとおり報告した。

- ・ 車道部について、3 月 29 日に開通し、現在の一方通行から対面通行へ交通が切り替わる。
- ・ 手形方面からの通行は、これまで広小路側へ右折しかできなかったが、開通後は南通り方面へ直進ができるほか秋田駅西口へ左折できるようになる。
- ・ 南通り方面からの通行は、これまで左折しかできなかったが、開通後は手形方面へ直進できるようになる。
- ・ 交通の便が大きく変わることから、安全に十分配慮のうえ通行していただきたい。車道開通後、引き続き歩道を整備し、令和 3 年度中に完成予定となっている。

#### ④秋田市まちづくり Lab について

仲小路振興会の三浦副会長が以下のとおり報告した。

- ・ 秋田市まちづくり Lab という秋田市主催のワークショップイベントにより、仲小路を舞台に秋田市を盛り上げていけないかということから本取組がはじまった。関係者による検討を踏まえ、「朝なかいち」を実施することとなった。仲小路の店舗のほとんどが 10 時以降に開店しているが、千秋公園を散策する人など、朝に中心市街地を回遊する市民等が多いという現状を踏まえ、当振興会の会員店舗において、市民等が朝の時間を有効活用いただくようなワークショップを行うこととした。
- ・ 今後について、4 月の実施結果を踏まえ、5 月に検証し、6 月以降の取組を検討していきたい。

#### ⑤駅たびコンシェルジュについて

東日本旅客鉄道秋田支社 地域活性化推進室の田口室長が以下のとおり報告した。

- ・ JR 東日本管内の第 1 号店として、駅旅コンシェルジュを秋田と川崎で開業した。
- ・ これまでは、びゅうプラザ秋田で旅行商品の販売をしてきたが、インターネットの普及による消費者の購買動向の変化が見受けられることから、オンライン販売等を検討するなど消費者のニーズにそった対応をしていく。
- ・ 旅のコンサルティング機能や地域情報の発信などに務め、お客様が相談しやすいようにしていきたい。また、現地の散策ガイドを行っていく。秋田市の魅力を再発見するというコンセプトのもと秋田駅から赤れんが郷土館や旧金子家などをまち歩きするプランを定期的に行っていく。他地域のコンシェルジュと連携し、各地の魅力をオンラインで紹介するような取組を行う。

### (3) 秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗

#### ①秋田市中心市街地鳥瞰図作成事業について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 中心市街地活性化基本計画の期間内に完成した施設と今後完成予定の施設を一体的に表し、中心市街地が一層魅力的になることを市民等に周知するために本図面を作成した。タイトルは「空から見る秋田市中心市街地のまちづくり」としている。
- ・ 公開日は 2021 年 4 月 1 日を予定している。
- ・ 作成について、2020 年 11 月 4 日に秋田駅の東側からドローンをあげ、中心市街地一体を撮影している。図面の加工について、秋田公立美術大学の小杉教授に依頼し、図面全体の加工のほか、「あきた芸術劇場ミルハス」や「ホテルメトロポリタン秋田ノースウイング」などこれから完成する施設のモデルを作成いただいた。
- ・ 今後の活用方法について、中心市街地の人通りが多い箇所にラッピングの掲示物を掲載するなど検討していく。

作成に携わった秋田公立美術大学の小杉教授が以下のとおり発言した。

- ・ 作成して終わりではなく、今後もブラッシュアップして行って欲しい。ドローンの撮影画像の画質が良いので様々な PR ツールに活用できる。

- ・ 鳥瞰図の活用方法について、大きい図面を掲示し、複数人で中心市街地を眺めながらまちづくりについて会話をするようなことに繋がればいいと思っている。

秋田市都市整備部の根田部長が以下のとおり発言した。

- ・ コロナの影響で外出の機会が減った市民などが鳥瞰図を見て、秋田駅周辺の施設がこんなに増えたのかなど目で見えて感じられる、完成予定の施設を見て今後の期待感を持つことができる非常に良いPR資料だと思っている。
- ・ 東日本旅客鉄道秋田支社の田口委員から「駅たびコンシェルジュ秋田」の開業について、ご報告いただいたが、是非本資料を活用し、中心市街地をPRしていただきたい。
- ・ 秋田市としては、今年の後半頃に広報あきたに掲載し全市民に周知したい。また、今後新たに建設される施設など中心市街地の変化を図面に追加するなど活用していきたい。

#### 【情報提供】

東北経済産業局より提供された「中心市街地活性化等支援事業」に関する資料を出席者に配布した。

#### 【その他】

秋田大学の篠原教授が以下のとおり発言した。

- ・ アートなまち歩きについて、商業店舗の紹介の仕方として、どんなサービスが提供されるのか端的に伝わるように記載することが望ましい。さらには、利用者の声を吸収し、「こういうことが出来る」と明記されれば利用者の増加に直結する。
- ・ 中心市街地に知識の集積があることが地元客の獲得のために重要な要素となる。商業店舗は商品・サービスを提供するだけでなく、専門知識を教えるような取組みが効果的であり、大曲では「まちなかカレッジ」を実施している。秋田にゆかりのある映画の上映会や講演会などが定期的に行われる情報拠点を中心市街地に整備することも集客のための一つの手法と考えられる。網走では、国土地理院が撮影する空中写真を拡大したものを施設に掲示するなどしている。

閉 会